

予と雖も五十の表と遠く

はるかならむらの清くは

来賀の繁白、故道つれよ

〜自らも其智をばけり

~~~~~

来賀のゆき

鷹が羽を踏む

真嶽守

来水

五十花





十世のゆや

鷹乃部踏る

五十葎

其引

雲早舎

五十ととみより子や松の年 龍童

老あゝ杖を杖あり牛の秋 祇元

若艸や登路もそり老の坂 巨柗

宝子と初くく五十とや神曆 不流

蓬萊や時をそゆる 老は坂 芟丹

帆試あていそは春風何五里 川雨

春を海に老の蒼や八子代系 桃牛

松の葉はみ川と年の花あれや 羅光

老あゝぬみまう娘一や松の丘 菊明

武蔵野子十五折あ起春は月 松霞

水あゝ五十は今日の曼尼和 羊林

浪志川くうと豊や亀の春 推鼓

百年の跡芳一 卧 竜 梅里風

梅々香や百年まくの白髪 摺 文車



百年の殊芳一 卧 竜 梅 里 風  
梅、香や百年まゝの白髪摺文車  
非や天ぬまゝのわさう五十鈴川 在天  
あまろし五十鈴春や福壽草 芦江  
峯く牙白髪二月や五十の巻一箕  
鶴も来く鶴のや春の老松屋 渙江  
老松も来りて終ふや申 の春 墨汁  
花は後多尔雪のたけや 露庭 栢十  
飲む酒もあはれくあり五十の老 春光  
五川く咲花春のみ多るを此 張六  
下松は五蓋とまゝの男少 竹逞  
くくらあはれみちあり。老の春 竹来  
と拍子とあはれく百代と松 囉二朝  
幼夢や又々年々五十 年 風谷  
童部よ志くくこはれみちの巻 布盛  
年よ老松はまゝや梅の影く此 幼 吟谷  
老の賀は名よゆり、つ 柳り部 竜逞  
摘あうぬ松末慮く、いそ 葉 原 麥刈  
五十嵐の整芳一や梅の夢 麥河



摘あめね於末慮し、いそ葉系麥列  
五十嵐の繁芳しや梅の毒麥河  
正月無常あり五十能、是夜隨行  
御影身縛や海よりて六十春柯雲

其賀 江戸連

先うつせよかき山と鏡りら 存義  
年禮や五百八十一と曲了 米仲  
尉と如新繁は兒とん松盒子 再賀

是かきり男はくりや梅の花 湖十  
哉きんぬ十能春牙 有程い 馬紅  
いそ葉拵鶴とよのぶのえんか 知圭

人との海ごめ能字とあり 採の念 花萼  
賀能敷のよりりしりやむめのを 賀亭

仙臺能百とすや蘇入 能二調  
武能能中よみとれぬしひか隣矢  
子や皆り五蓋の松やあみりり 立矢  
握くじぬ人海えて菊分限 冲谷



子也皆以五蓋の松やみりり 立矣

握くはむ人海えて菊分限沖谷

名色も春のあけよ五十流川 栢庭

春満了鏡よりやいそく川 訥子

百年のなうらとこや蓬花子 蛙井

五十枝より百喙りやう乳の宿 文彦

年中てふ試扣いそ原為菜芥 英山

孰臺花粉を煮ゆと五十 春 栢至

哲あつて不老の後や 大椿 苑之

江橋花伴達と後より 齡 那 宁元

不龜乃青くは踏や寝し年 花永

嗟均きり年花粉く 匂ひ系 看我

五十枝平桃の目水く 八王子 花羅

子やくは餘浜の伯父孫年 の花保女 ハナ

橙花長生孫や門の春 里我

老きくは薜の側花 繁鏡 木我

海客やまめおはよ節く栢の系 我鳥



老々いや薜の側能 盤鏡 木我

海老やまめおひよぶく楊の系 我鳥

炭年と替るぬ顔のむ 名春 陸我

釣針や鰍を遊るは 糸代の名 京我

ひまふく 松の五枝み成 浩万 歳 淳青

年紀やいのち名柄能立 流好 桃下

いふ如賀の名深ある日や 大一座 如喬

丹頂の年おくるく 名名蒙か 鶴我

ちり産経ひを柴や 万年 洒 盛宇

伴勢道の老々ぬ旅や 名名り 俊我

隈りぬ甲斐のるいり 此名の色 百布

登鏡くを名中の松と 坂已一

虎亀の端と名一いりの春 京 輕我

釣竿おとつひと承一名我 大坂 時中

十かきりの松影うつま 五十沢川 井季

勢列村和

花とあふふ五日の歌や 百子名 八王上 呂溪

梅と名ゆく春のまきり 八重探 常列堂名寄 益眠

松老ぬんを名めれ 花はり 上 氏我



梅の満る春のさき 八重桜 益眠 常楽堂

松をぬくともみれ 花はうら 氏我 五

賀正片の建武内若草年の雲 草雨 同問頼

五文子ハ定りしけり 句ひも 下徳押細 梅下

春永ハ既中絶せよ 梅縁寺 長秋 二全吉川

色や暮酒をそそ 万年歌 万梅 全務沢

春秋日の杖 耳のやれ 若老人 朝風 阿列

春源一次の 一問と百福 夢 白我 山田

年とそは所も孤や 若菜 籠可仲 中夜

よと産の子 年能下 魚方 道盛 泉 村山

賀軸


八王子真嶺亭の

五十齡を祝ひ 願人 一浮齊

双六

そのしれ

永秋

人老や 

昔宝曆二壬申初春

彫示泉叩玉



昔宝曆二壬申初春

彫小泉叩玉







